

# 第6次真室川町総合計画

第2期真室川町まち・ひと・しごと創生総合戦略



2021 - 2030

生きがいを感じ 幸せを感じるまち 真室川

～ 人と未来がつながる「住みたい・帰りたい・訪ねたい」ふるさとの創出 ～

令和3年3月  
山形県真室川町

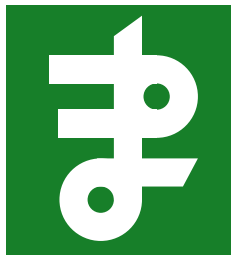
# 町民憲章

昭和55年7月5日制定

わたしたちは、真室川町の町民であることに誇りと自覚を持ち、自然と歴史を大切にし豊かで住みよいまちを築くために力を合わせてこの憲章を守ります。

1. 郷土を愛しゆとりと希望に満ちた、明るい町をつくります。
1. 協力して連帯の心を育て、生きがいのある町をつくります。
1. 励ましあって働き、生涯のよろこびと活力のある町をつくります。
1. 若い力をのばし、子供や老人が大切にされる町をつくります。
1. 心身をきたえ、たがいに学び合い、明日をひらく文化の町をつくります。

## ○ 町章



この町章は、「まむろがわ」の「ま」を基本にデザインしたもので、三本の線は「川」を表し、これを結んだ輪は、三つの地区(真室川・安楽城・及位)の変わらない連帯を表す。そして上下に伸びた直線は、町の発展と希望を象徴する。

## ○ 町のシンボル

### ◎町の木「梅の木」



### ◎町の花「梅」



### ◎町の鳥「ウグイス」



### ◎町の魚「ハナカジカ」



### ◎町の音頭「真室川音頭」



### ◎町の昆虫「ハッチョウトンボ」



## 『生きがいを感じ 幸せを感じるまち 真室川』 の実現に向けて

---



元号が「平成」から「令和」へと変わり、時代の潮流も「物の豊かさ」より、持続可能性を重視したゆとりある生活や自分らしさの発揮などの「心の豊かさ」を大切にする考え方へと変化しています。

また、少子化を伴う人口減少の加速、自然災害の頻発化・激甚化、地球環境への意識の高まりなど、本町を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、まさに今、時代の転換点にあります。

こうした中、世界中を震撼させ、今なお猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大は、マスクの着用や身体的距離の確保など日常の生活スタイルを変えたほか、急速なデジタル化の進行も相まって、テレワークなどの多様な働き方や、地方分散の流れを生み出しました。

時代が大きく変化している中であって、こうした社会の潮流を的確に踏まえつつ、将来に対する明確なビジョンを持って取り組んでいくことが重要です。

このため、中高生によるワークショップ、町民アンケート、総合計画等策定委員会での審議、パブリックコメント等により、多くの町民の皆様に関わっていただき、このたび、今後10年間の新たなまちづくりの指針となる「第6次真室川町総合計画」を策定いたしました。

この新たな計画に基づき、町民の皆様お一人おひとりが、自分らしさを発揮しながら輝き続ける、誰もが「住みたい・帰りたい・訪ねたい」と思っただけのふるさとづくりを進め、子どもから高齢者まで幅広い世代が「生きがい」を感じ、「幸せ」を感じることでできるまちの実現を目指してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提案をいただきました町民の皆様、そして、熱心にご審議をいただきました総合計画等策定委員の皆様にご心からお礼申し上げます。

令和3年3月

真室川町長 新田 隆治

## 第6次真室川町総合計画の策定によせて

---



本策定委員会は、令和2年5月8日に町長より諮問を受け、第6次真室川町総合計画の策定について審議を行ってきましたが、このたび審議を終え答申する運びとなりました。

今回の総合計画では、第5次総合計画の成果を踏まえ、人口減少・高齢社会への対応、産業振興と雇用の確保、人材育成、安全・安心の確保といった社会情勢の変化への対応が求められました。

そこで本総合計画においては、『生きがいを感じ 幸せを感じるまち 真室川』を10年後の「まちの将来像」とし、誰もが「住みたい・帰りたい・訪ねたい」と思えるまちを目指し、この実現に向けて5つの「基本目標」を定めています。

まず生活の基盤である産業の振興や雇用の確保については基本目標Ⅰ『やりがいを持って安心して働けるまち』を、次に誰もが健康で安心して生きることができるよう基本目標Ⅱ『健やかで安心して暮らせるまち』を定めました。さらに次代を担う人材を育てるために基本目標Ⅲ『みんなで育む学びのまち』を、そして日々の暮らしの質を向上させつつ、それが持続し続ける条件づくりのために基本目標Ⅳ『暮らしやすさを実感できるまち』および基本目標Ⅴ『健全で自立したまち』を定めています。

「まちの将来像」の実現には、本総合計画で策定された政策・施策を着実に実行していくことが重要となりますが、そのためには町民の皆様のご協力が不可欠となります。町民一人ひとりが「まちの将来像」を共有し、行政と協働しながらその実現を目指していただくことを祈念しております。

最後になりますが、審議において多くの貴重なご意見をいただいた策定委員の皆様、また取りまとめにご尽力いただいた事務局の皆様にお礼申し上げます。

令和3年3月

第6次真室川町総合計画等策定委員会

委員長 下平 裕之







